

特定事業者排出量削減計画書（新規・変更）



| | | | | |
|------------------------|---|--|--|-----------------|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 京都市南区西九条東島町63-1 | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | エムケイ株式会社 代表取締役 青木信明 | | | |
| 特定事業者の主たる業種 | 一般乗用旅客自動車運送事業・一般貸切旅客自動車運送事業・特定旅客自動車運送事業・アミューズメント事業 | | | |
| 該当する事業者要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号及び第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | |
| 計画期間 | 平成20年 4月 ～ 平成23年 3月 | | | |
| 基本方針 | エネルギー消費効率の改善に関する取組により、CO2排出量の削減を目指す。 | | | |
| 推進体制 | 営業本部長・管理本部長を中心とした検討委員会の設置と実施計画の策定、進捗管理方法を構築する。 | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | | | |
| | 適用範囲 | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の計画 | 取得年月日 | | | |
| | 年度 | 設備、対象、工程等 | 計画内容 | |
| | 20～22 | 営業車 | タクシー車両90%以上を排ガス規制「平成12年基準排出ガス50%低減レベル（E-L.E.V）」以上の基準に適合した車とする。 | |
| | 20～22 | 営業車 | 毎日の乗務前の点呼、定期的な教育指導の場において、営業車のアイドリングストップに関する教育を推進する。 | |
| 20～22 | 全部署 | 業務による移動で自動車を使用する場合、乗合にし社用車の使用を約2%抑制する。 | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 排出区分 | 基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） |
| | A 事業所等排出区分 | 2,682.2 t | 2,700.0 t | 0.7 % |
| | B 輸送車両排出区分 | 24,049.1 t | 23,451.5 t | -2.5 % |
| | C その他排出区分 | t | t | % |
| | 排出合計 | 26,731.2 t | 26,151.5 t | -2.2 % |
| 目標設定の考え方 | 事業所は3カ年で2パーセント削減に本社移転分を考慮、輸送車両は原単位の削減目標に増車計画（3カ年で30台増）を考慮した。 | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） |
| | 輸送車両 | 二酸化炭素換算 （走行キロ） | 0.283 kg-CO2/km | 0.275 kg-CO2/km |
| | | 二酸化炭素換算 （ ） | | |
| | | 二酸化炭素換算 （ ） | | |
| 原単位の指標及び計画数値設定の考え方 | 走行キロあたりの排出量を原単位とし、平均年1パーセント削減させる。 | | | |
| 地球温暖化対策貢献量 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | |
| | | 取組量等 | | （二酸化炭素換算） |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） t |
| | 市内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） t |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （売電量） | kwh | （削減量） t |
| | | （熱供給量） | GJ | （削減量） t |
| | グリーン電力の購入 | （購入量） | kwh | （削減量） t |
| 削減量等合計 | | | t | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | | | | |
| 特記事項 | 変更（修正）内容：① 19年度実績及び22年度内訳書 山科営業所 輸送車両排出区分 LPG につきまして、比重を掛けておりませんでした。計算式を修正（×0.5661）して、「トン」単位にしました。 ② 計画書 原単位当たりの排出量 走行キロ につきまして、京都市外の車両分も含まれておりました。キロ数を修正（-11480718）して、「京都市」の原単位にしました。 | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。
 6 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。